

平成30年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科  
 資格： 准教授  
 氏名： 瀧川 修吾

研究課題		日本政治史・政治学の通史及び、専門研究
報告の概要	研究目的及び研究概要	過去の歴史的事実から、向後の政治をより良くするための教訓を得んとする試みは、政治史という学問の最大の使命であろう。私の場合は、幕末から明治の対外思想や政策に関する専門的研究を進めると共に、これをいわゆる一般的な通史や、平素の講義等にフィードバックする作業に取り組んでいる。 また、歴史的なアプローチを踏まえつつ、現在の政治・法制についても幅広い研究を行っている。具体的には、権利擁護と成年後見制度、更生保護制度などの研究に取り組んできたが、今年度は、本学の「危機管理特殊講義2(国際化と外国人対策)」の中で“日本や世界における移民と移民政策の歴史”および“日本におけるグローバリゼーションの諸相”について講義を担当したため、これに関連する研究に最優先で取り組んできた。
	研究成果	前者については、特に「明治維新と征韓論～西郷隆盛はなぜ征韓論を唱えたか～」というタイトルで講演を行った。幕末維新150周年の節目に、我々は「維新」をどう捉えるべきかという問題提起を行い、そうした混迷を極めた政局においてこそ「征韓論」は出現したのであって、西郷隆盛の征韓論は、まさしくその典型とでもいうべき政論であったということを解説した。 今年度、最大の研究成果は、下記の共著である。私としては、先述した講義の担当者として、これに関する研究業績が是非とも欲しいところであった。有り難いことに、この分野、随一の専門家である高宅先生との共著の話を、実はすでに前年度中に頂いていたが、正直、私にどの程度の貢献ができるか自信が無かったため、今年度の研究計画には敢えて記載はしなかった。実際は、これにほぼ全力を傾注したため、講義も無事に終えることができ、また、高宅先生の有り難い御厚意で下記の著書に共著者として名を連ねることもできた。 総じて、研究に割ける時間が著しく欠乏しているのが現実だ。
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	①著書:高宅茂・瀧川修吾『外国人の受入れと日本社会』,日本加除出版,2018年10月1日,318頁(第4章と第5章(241-315頁)のみ,共同作業を行った。具体的には,これら2つの章の元になった1万7千字超の文章を,高度な専門知を有する高宅先生の指導を受けつつ私がまとめた次第で,本書の刊行にあたっては,高宅先生自身がこれを大幅に書き直し,今度はその原稿を,私が誤字や誤植の類を確認・指摘し,公刊したという関係にある。)
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	該当なし
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	瀧川修吾(2018年6月13日)「明治維新と征韓論～西郷隆盛はなぜ征韓論を唱えたか～」社会保険労務士桜門会講演